

もしもシリーズ・周南で神等去（からさで）祭があつたら

カフェバー「miharu」で直会みはる なおらい



店主の山本郁美さんのおススメのプリン。ハイボールによく合う=写真㊂。ほかファイナンシェもいただいた。バターが良く効いている。



置時計が、時を刻む。プリンにハイボールを注文。「直会（なおらい）」が「♪♪周南でもはじまつた。」のプリン、甘すぎず。

直会（なおらい）し
ちやおひ

店内は静かで、どこか懐かしい空気が流れている。

miharu (みはる)。
miharu cafe&bar miharu (みはる)

「世界をもっとヘンテコに」
それが、「おまつり新報」の社是である。
神々が出雲から全国へと戻る神等去祭（からさで）（つまり）。その祈りの余韻を、山口県周南市・JR徳山駅周辺で拾い集

児玉源太郎大将の産湯の井戸がある児玉町。ベニチで、べろんべろんに酔いつぶれた須佐デスク（スサノオ）が倒れてい

秒針再始動、地獄も

た。
「しゃちょー…わしゃーいつも、ふんが一どすこいとがんばってるけど…たまらんっすよ、山口弁でいうと「えらい」（つかれた）っすよ…」

それがにじむその姿は、まるで神が地上に降り立つたかのよう。いや、「ここは周南の“稻佐の浜”なのかもしれない。地球の平和を祈りながら三人は、その名も「平和通り」へ。

スマホを片手に蛭子記者が見つけたのは、間口の狭い、でも明るくてかわいい夜カフェ=写真㊤が入り口概観。

須佐デスク救出のために駆けつけたのは、新人の蛭子記者（コトシロヌシ）と大山国夫社長（オクニヌシ）。夜の平和通りを歩きながら、社長がつぶやく。

おいしいですね～。ハイ
ボールがすすむー」とぐ
びぐびぱくぱくの蛭子記
者。

「でたー 鉄板の神食レポつすね、しゃちよー。神話級(△・△・△)」と蛭子記者はおどけた。

ふと、蛭子記者がつぶやく。

す 大山社長、一句詠みま

miharuを出した三人。夜
風が頬をなでる。

ミハルで的中。……田を見張る走りだな、miharuだけに」（大山社長）
「3↓8↓6（み・は・る）エ!!連単ですね……」
（須佐ヶスク）
神々の風は、甘味ともに走り去り、徳山駅構内へ入つていった。

余韻

2026年、またこのまちで会おう。神々は戻り、秒針は動き出す。あなたのまちの神等去祭、どこで開きますか？ここいろとからだと御縁を大切に。

「須佐くん、きみのおかげで『おまつり新報』は回っているんだ。助かっている。少し休むんだ。神等去祭も終わつた。2026年は、きっともうとよくなるよ」

そして、時計を見つめながら、ぽつりと一句。

そして、時計を見つめ
ながら、ぽつりと一句。

「あら、まあ、偶然ですね」と代表の山本郁美さんが微笑む。「実はこの曲『晴れ』っていう曲の“はる”と、私は“郁美”的“み”を合わせて“miharu”にしたんです」

「『いつか、誰かの心に
春が訪れるように』って、
そんな願いを込めてるん
です、と店主の郁美さん」



【cafe&bar miharu (み
はる)】
〒174-0015 神
奈川県横須賀市平和通り8-
100
☎ 046-0008-0045
定休日 月、火曜日
営業時間
水、木、金、土、日
18時～22時